作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	道西 博行
所属機関名	工学部電気電子システム学科
職位	准教授
在籍年	23 年

教育の責任

工学部電気電子システム学科に属し、電子デバイスコース科目、コンピュータ情報コース科目、卒業研究、1 年次導入科目等を担当している。ゼミ担当としての卒業研究指導、2 年次クラス担任としての学修指導に加え、就職担当としての修士・学部生の就活指導を担っている。

教育の理念

社会人となった際に様々な社会の要請に応え得るような実践重視の教育を目指しており、幅広い知識を身に着けさせるだけでなく、取得した知識や情報をもとに論理的に判断し、環境や安全に対して配慮のできる科学的思考を養う。そのために、自身が担当する電子デバイスコース科目、コンピュータ情報コース科目において、能動的学習を促しながら、知識・理解の定着を図り、実用的な技能と総合的な判断力を身に着けるための授業体験を提供する。

教育の方法・方針

上述の理念に基づき、「知識の習得を関心・興味・好奇心へ」、「気づき力の向上を図る」を教育方針のスローガンとし、その実現のために以下の方策を試みている。

「知識の習得を関心・興味・好奇心へ」

学科に関連する資格試験の問題（出題）は、知識に基づくものが大半であり、座学の講義ではどうしても知識の詰め込みに陥ってしまうため、少しでも記憶に残る（印象に残る）ように興味を引く事例が必要不可欠であると考えている。その技術がどのように変遷・発展してきたかを教科書だけでなく、昔の雑誌等も利用し、実物が入手できる場合は、手に取ってもらい、教卓で演示実験等も実施する。

「気づき力の向上を図る」

電気電子関連の技術者には、環境や安全に対する配慮が強く求められることから、講義の課題であっても、自身の解答が誤っているかも知れないという疑いの目をもって、注意深く対応する習慣付けを行う。担当講義においては、課題提出システム(i-sys)を利用しており、講義中に提出課題を確認することで、学生の理解度を把握し、リアルタイムにフィードバックすることで、速やかに不備に気付かせ、再提出に繋げることができる。また、復習用課題とその解答動画を準備し、課題提出後、速やかに解答動画が視聴できるようにする。

教育の成果

授業アンケート(2021-2023)において、上記を実施している科目（コンピュータ実習、プログラミング基礎、コンピュータ工学 II）は実施していない、あるいは、一部しか実施していない科目（ディジタル回路 I、電子デバイス工学）に比して、「この分野の理解が深まった」と回答した学生の比率が 10%ほど高く(82%⇒92%)なっている。「(授業を受けてみて、) 満足、ほぼ満足」の比率も同様に高い。また、「復習が何度でもできる」の回答もわずかであるが増加してい

る。演習を増やして欲しい等の意見もあるため、講義形態の見直しは必要であると感じている。
今後の目標
当学科は電気主任技術者の認定校ではあるが、電験三種資格を在学中に取得していれば、さらに就職に有利である。1 年次の導入科目を初め多くの講義の中で、その資格紹介および過去問紹介も行っている。これまで在学中の受験者は非常に少ないので、少しでも増えることを期待しながら継続してゆきたい。 また、理念に基づく方策が講義形態により実施できていない科目があるので、早急に実施できるように改善を図ってゆきたい。 さらに、学生の主体的に学ぶ姿勢を助長すべく、事前事後学習の環境を科目ごとに整備していく。このためには、現在はほぼ PDF 資料のみであるが、今後は解説動画や理解度を自己診断できるツールを用意する必要性を感じている。
根拠資料
My-log 資料、授業アンケート、宿題課題、i-sys 課題